

(別紙4(1))

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101362		
法人名	有限会社 絆		
事業所名	グループホーム 絆		
所在地	盛岡市仙北三丁目14-41		
自己評価作成日	平成22年11月24日	評価結果市町村受理日	平成23年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370101362&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成22年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者、職員とも常に笑顔があり、入居者の皆さんが穏やかに安心して暮らしている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム絆」は、盛岡市内の幹線道路に近接した市街地に立地し、周囲は民家である。近くを流れる小川と道路の間の広い遊歩道が整備されている。この小公園は、ホームの利用者が散歩コースとしており、除草、清掃など地域活動への参加の場でもある。建物は、2階建て民家を一部改築し、居間やこたつのある小上がり、台所、居室は家庭そのものである。設立時は周囲との交流に苦慮していたが、ここ数年で地域との関わりも根付き、地域行事にも積極的に参加している。運営委員の消防署員の助言で、看取りが多くなっている実情を踏まえた救急搬送の基本情報も作成中である。また、精神障がい者の協力事業所として、6ヶ月間の社会適応訓練で1名を受け入れている。特に「人間尊重の言葉かけ重視」を日ごろから心がけ、支援をし、安心して住みやすいホームになっている。また、調査当日、高校生が数名、クリスマスカードとお土産を持って訪問していた。遠野出身の生徒が遠野物語を朗読したり、利用者も笑顔で聴いていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のケア会議の時に、理念を確認することにより理念にある入居者の尊厳を守っている	利用者の尊厳を第一に考え、毎月のケアカンファレンス・職員会議の次第に、理念を明記し読み合わせ、確認、共有して日々の実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	仙北三丁目町内会に加入し、町内の行事等に参加している	仙北三丁目町内会に加入し、町内の行事(舟っ子流し・さんさ踊り・運動会等)に積極的に参加している。また、近くの公園の草取りや散歩中に近隣住民から声をかけられることが多くなった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、話題になっており地域の人々にも理解者が、増えつつあるように思う		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は、運営推進会議に消防署職員、主治医にも参加してもらったほか、民生委員さんには、毎回出席してもらっており、情報の共有が出来ているように思う	年5回開催している。今年は、消防署職員、主治医も参加している。消防署員の指導で、救急搬送時の基本情報を作成中である。民生委員には、利用者が小公園で休憩できるように、市に提言して頂き、ベンチが設置された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者から、スプリンクラーの設置等について、指導があったり、窓口では親しみの持てる対応をしてもらっている	書類等は必ずホーム長が市に持参し、その機会を捉えて情報交換している。運営推進会議での提案も、委員を通じて実現に至っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は夜間のみである、外に出ればついて行き満足するまで付き合っている	「ホームが楽しければ安心して戸外には出ない」をモットーに、言葉かけを重視し「認知症の前に一人の人間」としての関わりを実践している。外に出れば、満足するまで付き合っている。施錠は夜間のみである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員がお互いに気をつけている		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて、できる援助を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	変更等が生じた場合は、毎月の手紙で知らせている、または面会時に説明をさせてもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加してもらった時や面会時のみだけである、地域の方からは、避難訓練に参加してもらった時に意見をもらっている	家族会は設置していないが、常時家族からの相談・苦情をホーム長が対応している。家族のなかには、長時間面談することで満足される方が多い。苦情はない。意見等は事業所の運営会議に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の会議のときとか、随時、聴くようにしている	毎月のケア会議には社長も出席し、職員の意見・提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH協会での研修会には、できるだけ参加できるように勤務調整をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会ブロック内での、交換研修に参加し、新しい情報の習得や刺激を受け、自己の向上に努めてもらっている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本人さんに合わせながらの、ケアで自分らしく暮らせる環境を作っている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんの本人さんに対する希望等を、聴きながらGHIに慣れるまで、頻繁に連絡をさせてもらっている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今回、入居された方を例に取れば、歯の治療をしたいとの希望があり歯科受診を支援した			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること、していることを見守ることで本人さんが自信を持って生活することを支援している			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人さんにとって良いと思うことは、家族さんと話し合いをしながら、すすめている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域からの入居者は1名だけなので、難しいことだが、出きれば良いと思っている、	地域からの入居者は1名なので、なかなか難しいところであるが、今後馴染みのところ(人)などへの支援を具体的に進めていければ、と考えている。地域外の利用者に対する馴染みの関係維持について対応することは難しく感じている。		利用者の今までの暮らしの中で培ってきた関わりについて、途切れない支援が出来るよう検討していただきたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの経験では、利用が終了する時は亡くなる時であるが、出来ることは支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難になってきているが、一緒に暮らしている中で本人さんの気持ちいいと思うことは、わかるので支援できていると思う	入居してからほとんど介護度を上げることなく、過している利用者が多い。言葉かけを重視し、指示言葉を使用しないことを心がけて、利用者の思いを受け止め、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人さんが入居するまでやってきた暮らし方に、近づけるようにしているので、本人さんがしていることは否定しない		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者個々に合わせて対応している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度は、全職員が参加したケア会議を開き、モニタリングと介護計画を作成している。本人の変化に応じて、その都度話し合い計画を変更している	月1回全職員参加の会議を行っている。利用者は3ヶ月に1回モニタリングと、介護計画の見直しをしている。また、本人の変化に応じて、その都度、話し合いをし計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の他に、様子記録を記入し細かく様子がわかるように工夫している。介護計画にも活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画は計画として、本人ご家族のその時の状況に合わせた対応を心がけている		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	難しいことではあるが、地域の皆さんのおかげでできていると思う		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は気さくな方であり、ホームの良き理解者でもある、何でも話せる良い関係を作っている	ホームの協力医は気軽にホームを訪れ、利用者、気さくに声掛けをしながら、さりげなく状態観察してくれている。運営推進会議の委員にもなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は、いないので週一回の訪問看護師に入居者の状態を伝え、受診したり、受診時の報告をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関には情報提供や相談をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に入居者の現在の状態について報告し、対応策をご家族、ホームで共有している	今年3名終末期を迎えた。2名は医療機関で、最期を看取ったが、1名は家族の希望もありホームで看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、管理者、主治医に連絡し対応することになっている。事故発生時も同様である		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練には、必ず地域の方に参加してもらい、動き方等について話し合っている	民生委員が窓口になり、地域に働きかけ、避難訓練を実施した。訓練時の意見で、地域の協力者が搬送誘導する際、利用者が確認出来るようにと、玄関内に写真を掲示している。	夜間訓練を実施されることを期待する。職員同士で実施することでも、夜間避難の盲点が認識出来るのではないかと考える。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対する対応については職員がお互いに注意し合っている	管理者は、日頃から職員へ利用者の尊厳を重視した言葉かけを行うよう徹底した指導を行っている。また、職員は相互に注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人さんのペースに合わせ、支援している。無理にはしていない、ゆったりと過ごしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品等の購入依頼時は、対応しおしゃれを楽しんでもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者、職員と一緒に食事を楽しみ、下膳はできる人のみをお願いをしている	利用者が高齢化し調理の手伝いは出来ないが、片付け等出来る方は手伝っている。職員も一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の落ちた入居者については、摂取量のチェックをして対応している、他の人も残食をチェックしているが、皆さん完食されている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者個々に合わせた対応をしている。夕食後は声がけや介助でケアをしている、訪問歯科も同時に利用しケアをしている		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個々に合わせて対応、訴えられない人には、本人さんの動きをみて対応し、トイレにて排泄が可能になっている	日中、ほとんどの利用者がトイレで排泄している。排泄の訴えのない方は、動きを察知してトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量に気を付けているが、下剤の服用もしている。基本的には自力での排便を支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者に合わせて支援、曜日は決めていないが、入浴する時間は本人さんが決めており、合わせて対応	何時でも入浴出来る態勢になっている。曜日は決めていない。入浴する時間は利用者本人が決められている。午後7時半ころには就寝するので、夜間の入浴を希望する方はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	認知症の進行により難しくなっている人もいるが、本人さんが発する一言を聴いて対応が出来ている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々に合わせた服薬支援をしている、症状等にも配慮している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居期間の差が大きくなってきており、テーブルの位置を替えたり、席を替えて対応		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々の散歩と地域の行事参加(運動会等)への外出になっている	今は寒いので、戸外に出ることは少ないが、暖かい時は、近くの小公園への散歩が日課となっており、ご近所との交流の場となっている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はホームでしており、購入依頼に対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望があれば取り次いでいる。家族から電話が入ったときも同様で本人さんに取り次いでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が狭いながらも、季節を感じてもらいたいとの思いで壁面を利用し、工夫している	食堂・居間・台所等共有スペースは、家庭的雰囲気があり、民家を改造した良さが活かされている。また、クリスマスツリーの壁飾りが飾られ、季節感がかもし出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	こたつであったり、ソファー等にて過ごしていることもあり、いいことだと思っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者さんにまかせているも、出来なくなっている人には職員が支援している	民家を改造しているため、各部屋ごとに広さや採光は異なるが、各自、利用者の好みで居心地良く暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内では動きは止めないで、見守りをしながら自由にしてもらっている		